解　説

技術開発と品質工学の変遷（1）
―今井兼一郎ロングインタビュー―

The Change of Technology Development and Quality Engineering (1)
― Long Interview by Kaneichiro Imai ―

今井　兼一郎*　　（聞き手）矢野　耕也**
Kaneichiro Imai　　*Koya Yano*

この対談は2008年の2月，「標準化と品質管理」誌の品質工学の特集のために行われたものである。長時間にわたったために，かなり割愛しなければならなかった。貴重な記録であったことから，日本規格協会の了解を得て，可能な限りもとのかたちで再録した。なおインタビュー時期からして，現在の情勢とは若干異なる部分があることをお断わりしておく。また学会誌2007年10月号には「ジェットエンジンから品質工学まで」として，本インタビューの半年以上前に同様のインタビューを行って記事にしているので，併せて一読いただきたい。

（編集委員会）

今井兼一郎氏　略歴

1917年生まれ。1941年東京大学工学部機械工学科卒業後，中島飛行機に入社。同年9月から1943年9月まで海軍造兵中尉として横須賀海軍砲術学校を経て，長崎県大村の第21海軍技術航空廠に所属。終戦間際には日本初のジェットエンジン「ネ-20」の試作にも関わる。戦後すぐに当時の石川島重工業（現在のIHI）に入社，ガスタービンや各種発動機関係の開発を手掛ける。退職後は日本大学教授，日本機械学会会長，品質管理学会会長，日本学術会議のメンバーなどの要職を務め，2016年4月で99歳を迎える。本会名誉会員。

1.「質」の議論を

――（**矢野**）　日本における科学と技術の課題から品質工学を考えるということで，話を聞きたい。今，科学と技術の関係で品質をいかに見るかということがあるように思うが。

今井　多分，気に入るようなことは言わないから，聞かなかったほうがよかったとなるかもしれない（笑）。

――　率直に言って，品質工学をどのように見ているか。

今井　先日，NMSという研究会に参加したとき，一番驚いたのは，品質工学は学問かどうかという議論をしていた。一体これはどういうことかよくわからなかった。当然，学問だし，みんな教えているはずなのであるが，日本だけが公式に教えていないのは，先生たちが，科学と技術の問題を明確にしていないからだ。サイエンス，テクノロジー，エンジニアリングなのか，サイエンス・アンド・エンジニアリングなのか，その辺の考え方をかなりはっきりさせる必要があると思う。

*　元IHI(株)
**　日本大学